

福祉サービス第三者評価結果（総括表）

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人	ヒューマン・ネットワーク
評価調査者研修終了番号	第14-12 第15-1-1 第16-1-1 第18-1-1

②施設・事業所情報

名称：認定こども園 石下保育園	種別：幼保連携認定こども園
代表者氏名：中嶋 和子	定員（利用人数）：109名(114名)11月1日現在
所在地：茨城県常総市新石下1031番地	
TEL：0297-42-2300	ホームページ http://ishige-kids.com/hoikuen/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 昭和27年4月1日	
経営法人・設置法人（法人名等）：社会福祉法人 寿広福社会	
職員数 24名	常勤職員： 18名 非常勤職員： 3名
専門職員	保育士 18名 栄養士 1名(委託)
	看護師又は准看護師 1名 調理師（員） 3名(委託)
施設・設備概要	保育室 353.24㎡
	遊戯室 73.84㎡
	厨房 41.13㎡
（設備等）飲料水用・手洗用・足洗用設備	

③理念・基本方針

<p>保育理念「共生」（ともいき）</p> <p>保育目標（明るく）心身共に健康で、明朗な子どもに育てる。</p> <p>（正しく）善悪の判断を身につけ、道徳性の芽生えを育成。</p> <p>（仲良く）円満和合の出来る人柄の基礎づくり。</p>
--

④施設・事業所の特徴的な取組

<p>リトミック・英語遊び・体育遊びを、保育の中に取り入れています。</p> <p>共生（ともいき）保育・異年齢児保育に力を入れています。</p>

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成25年 6月14日（契約日）～ 平成 27年 3月31日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（平成 25年度）

⑥総評

◆特に評価の高い点

○「共生（ともいき）」の理念に込めた思い・考えを職員と共有し保育の現場で実践している、また保護者への周知・理解の機会を工夫している

「共生（ともいき）」とは「お互いの違いを認め合う生き方」のことで、子どもたちが社会で生きていくうえで最も大切なことであると表明している。「保育方針」として一人ひとりの子どもの心に添う保育。「保育目標」として明るく・正しく・仲良くを掲げ保育を実践している。一人ひとりの個性や特性、身体的・精神性の違いを認める事こそ、個人の尊厳に寄り添う保育であるとの理念を新人研修で理解させ、職員会議等機会ある毎に確認をおこなって共有を図っている。0・1・2歳児からの教育・保育の大切さを認識した上で、自主性を尊重し、やれる事を出来る迄見守る保育がおこなわれている。「生き」とは生かされる事も含め個人の人権を大切にすることが徹底され、園児がそれぞれに上手に折り合いをつけて生活をしている事が食事時間など保育の現場で実践されている。保護者へは入園見学会時「保育のしおり」で説明し、ホームページや保護者会等、機会ある毎に説明がおこなわれ理念は「良い」「わかりやすい」等アンケート結果にも多数の意見が見受けられた。

○一人ひとりが温かく見守られる環境の中で自主性を発揮し、目標にある「生涯に亘り生きる力」の基礎を育てている。

0, 1, 2歳児の子どもに関わりは担当制の良さを活かし一人ひとりに愛着関係の中で丁寧に関わっている。保育者は個々の発達を認め自己発揮できるよう遊びや探索に寄り添い、継続的に見通しを持った関わり方で発達するよう支援している。3, 4, 5歳児は乳児期に培われてきた信頼関係をもとに異年齢保育で小さな社会集団を創りだしている。日々体験し考える力を養う中で安心して自己主張ができる自主的な生活を楽しんでいる。保育者は主体的に行動し自己肯定感が持てるようチームワークの中で実践し、保育の質の向上に取り組んでいる。

○個々の生活スタイルに添った流れる保育、互いを認め合う異年齢保育、多種多様な体験との出会い、医療育児支援との連携がインクルーシブ保育への充実を図っている

子ども達は毎日を十分に遊び学び生き生きと生活を創りだしている。個性を認め合い共感したくましく生きることを獲得している。障害があっても歩み方を尊重した生活が流れ、自然に関わり合いが生まれている。医療育児支援も個々に必要な支援で機関との連携を図り保育に役立て保護者へと繋いでいる。視覚に訴えた絵カードの利用、○、×のサインで言葉の良否を伝える等具体的な実践も試みている。子ども達の互いを認め合う姿は保育者の学びともなりインクルーシブな保育の充実を図っている。

○職員研修では新人研修として外部研修が必須とし、年間の職員研修として外部研修・内部研修・自主研修の3本柱で実施され充実している

新入職員研修として外部研修をおこない現場では先輩保育士と組み合わせてPDCAサイクルに添ってアドバイスがすぐに聞ける態勢が構築されている。

年間研修計画は個人の希望が優先され、受けた研修に参加できるよう、シフトの変更や経費負担等バックアップ体制が構築されていて、一人2年間で4項目の研修は必須と決めている。職員は自分の得意分野や好きな項目を選んで参加している。海外研修も取り入れ、法人

全体の中から保育先進国へ10人体制で派遣し帰国後各々良かった点を色々な観点から発表され、保育の質の向上に向けた取り組みが積極的におこなわれている。

○地域の人やボランティアとの交流を通し、子どもの生活の幅を広げるための取り組みをおこなっている

地域との交流として老人福祉施設の訪問がある。年2回4歳児と5歳児が訪問して“歌”を聞かせたり、一緒に“ふれあい遊び”を楽しむ内容であるが、交流を通して、子ども達をほめてくれたり、反対に「お年寄りが笑顔になる」「いつもは動かさない手を動かせた」など、成果が見られている。ボランティアとの交流から園の活動に定着したものに、「ぬいぐるみ病院」がある。これは医大生や看護学生が協力して保育園内に病院が開設されるもので、患者になるのは「家から持ち寄ったぬいぐるみ」、子ども達は「ぬいぐるみの保護者」になり、病院でのやりとりを楽しむ活動である。本物と同じレントゲン写真を使ったりして遊ぶ医大生とのやり取りは、子どものイメージを広げ、自分の健康にも目を向けられるようになっていく。3日分のカルテが発行され、その間家庭でもぬいぐるみのお世話が続くので、親子のコミュニケーションのきっかけにもなり、家庭を巻き込んだ活動になっている。地域の環境を活かすことや、ボランティアの協力から子ども達の経験や活動の幅を広げた取り組みが展開されている。

◆改善を求められる点

○異年齢保育での子どもの姿、遊びを学び合うことで保育の質の充実を図りたい

異年齢で過ごす子ども主体の生活は縄跳びや散歩、鬼ごっこ、ラキュー、カルタ、おままごと等々室内外の選択で遊びが展開され成長の糧となっている。年齢別の活動内容は指導計画からの落とし込みで、週日案に具体化され、振り返りがされている。また、食育や行事の際の計画、振り返りもしているが異年齢児での遊びの発見、関わり、発展、広がりについての実践の記録は少ない。異年齢保育の計画作成で視点を明確にし、仲間と一緒に遊びを職員全体で学び合うことで内容の充実・発展が図れるよう期待したい。

○外部からの不審者侵入対策として正門他、2か所の入り口の安全を再確認し保護者が安心して預けられる園を目指したい。

安全管理の面では園内外に防犯用カメラを7か所付け職員室にて監視できる体制にしている。園児も避難訓練を月1回以上実施している。不審者対策には力を入れ「いかのおすし」の合言葉を毎週末に確認し子どもの自己安全意識を高める取り組みをおこなっているが、正門他、2か所の出入り口開閉がきちんとおこなわれていない。不審者侵入の面からもきちんと閉める習慣をつけるためにチェーンなどを付けて確実に閉めることを子どもや保護者に周知し、全体にも協力をお願いを張り出すなど早期の対策を期待する。

○保護者の要望を解決するための仕組みが整備されてはいるが、保護者アンケートの実施や相談事業の工夫をすることで、さらなる保護者との信頼関係づくりを図りたい

保護者の意向や要望、苦情に対し、書面で申し出る仕組みが整備され、案内も玄関の目につくところに掲示されている。保護者の相談に応じる相談日も月1回設けている。意見や要望はほとんどないということであるが、今回の第三者評価保護者アンケートの結果をしてみる

と、園の対応についての理解度が低い保護者も見受けられた。保護者アンケートの取り方や活かし方については法人の弁護士に相談中であり、主な園行事についてもアンケート実施の方向で考えているということなので、このことも踏まえて、保護者の意見に対するフィードバックのしかたや、意見を出しやすくするための工夫、相談についても保護者が利用しやすい環境を見直すことで、さらなる保育の質の向上を図るとともに、保護者との信頼関係を深められたい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を受けることによって、外部の客観的な視点で保育園の運営を、経営者、職員等に項目ごとに分かりやすく示して頂きました。保育計画・指導計画の作成については全体計画から月案、週案に卸していく当たり前の事が反映できていなかった事を気づかせて頂きました。園独自の取り組みとして継続しているリトミック・体育遊び・英語遊び等が、園でのねらいや配慮などが共通理解の下に対応できるように文書化し、指導計画に反映して保育の質の向上を目指すようにしていきたいと思います。また、利用者満足の向上を図る上で、定期的なアンケートを行っていき、この事と並行して保護者が相談や意見を述べやすい環境を整えていく予定です。災害に強い園作り目指し、備品の整備の見直しや職員初動体制の確認、保護者への周知と対応をしていきます。第三者評価を受け課題が明らかになり、課題解決に向け取り組み、保育の質をなお一層上げていきたいと思っています。そのために、今後も第三者評価を受けていきたいと思っています。